

## フランスであり、ドイツでもあった「アルザス地方」



フランス、アルザス地方のリクヴィール村。ワイン畑が広がる

日本人ドライバーガイドとして、主にドイツ、スイス、そしてオーストリアといったドイツ語圏のご案内をしているが、ごくたまにフランスのアルザスと呼ばれる地方をご案内することがある。

そこは、私の住むハイデルベルクの隣町・ライメンから、スイスに向かって150キロほど行った、ライン川を挟んで対岸の、シュトラスブル周辺からライン川に沿ってスイスまでの地域二帯のことだ。

このような歴史をたどった関係で、この地方ではかなりドイツ語が通じ、町の道路標識もフランス語とアルザス語で表示している所もある。そして田舎に行くと、ドイツと同じような木組みの家が並んでいる村が多く見られる。

ずか数キロしか離れていないにもかかわらず、スーパーマーケット、あるいは朝市に並べられている豊富な食料、特にチーズ、ワイン、そして魚介類の多さには驚かされる。

考えてみると、ヨーロッパの歴史は、戦争と、それに伴う領土の割譲の繰り返しだ。

そのたびに領土が割譲、国家が分断され、ポーランドにいたっては過去に国自体がなくなってしまうこともある。

ドイツの魚屋(これ自体が少ない)ではほとんど見かけることのない生牡蠣が2ダースで約15ユーロ(約1700円)！ 生きた蟹がたったの8ユーロ(約1000円)！ 日本ほど新鮮で豊富であるとは言えないにしろ、タコ、イカ、アサリ、エビ、ロブスターが並べられ、鮭も1本単位で売られており、それをそのまま買い求めていく人も。食用蛙のモモ肉の串刺しが売

られているのにはさすがにびっくりした。

日本ではほとんど想像もつかないことが繰り返して行われたのが、ヨーロッパなんだなと、ふと思ったりする。

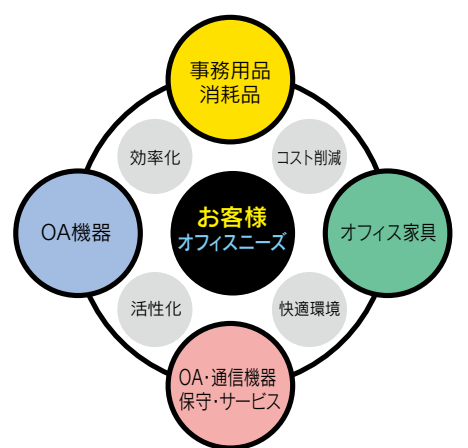


リクヴィールの町並み



コルマルの朝市の魚屋のロブスター

## あらゆるビジネスシーンをサポート



文・写真/藤島 淳一  
1952年生まれ。北秋田市(旧鷹巣町)出身。大学卒業後4年間のサラリーマン生活の後渡欧。1980年~85年旧東独ゲルリッツ市立劇場オーケストラ団員。1986年よりドイツ旅行をする日本人のためのドイツ語通訳兼ガイド業を開始。リムジンドライバーガイドとしてドイツとその周辺諸国の個人旅行向けのガイドをしている。  
<http://romantis.web.infoseek.co.jp>



秋田市泉南一丁目2番4号(新国道)  
TEL018(863)3455(代表)  
FAX018(862)0411